工事の無事祝い、通り初め

シラス面に新工法導入

薩摩田上トンネルが貫通

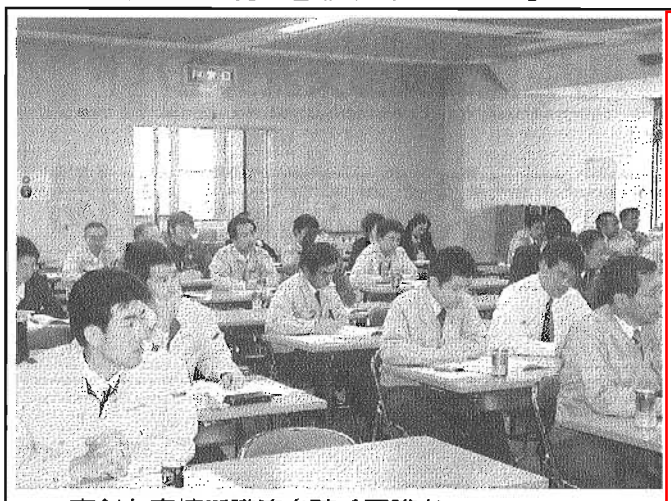
日本鉄道建設公団発注、鹿島建設㈱・住友建設㈱・西武建設㈱特定建設工事共同企業体施工の「九州新幹線薩摩田上トンネル」の貫通式が9日、鹿児島市の現地で開かれ、関係者多数が出席してシラス層の難工事の貫通を祝い、無事故無災害での完成を誓うと共に1日も早い開通を願った。

貫通式では、終点側から小里貞利衆議、須賀龍郎県知事（代理）、溝口宏二県議（代理）、起点側から松尾道彦日本鉄道建設公団総裁、赤崎義則鹿児島市長、田中浩二九州旅客鉄道㈱社長らが貫通掘削のビデオスイッチを入れ、会場に備えてあるスクリーンに貫通掘削の瞬間が映し出されると、沸き起こった大きな拍手の中、施工業者から貫通報告が行われた。

坂本芳郎坂本工業㈱会長らの貫通地点清めの儀に続いて、施主をはじめ、関係者の代表らが貫通握手・通り初めの後、参加者らが晴れやかな笑顔でトンネルを通り抜けた。このあと、武小学校のマーチングが華やかに演奏し、樽みこしがかつぎ込まれ、川合勝鹿島建設㈱副社長らが力強く鏡開きを行った。

会場を移して開かれた祝賀式では、松尾総裁が「同トンネルはシラス層で上部工にパイプルーフや薬液注入、下部工にセミシールドを使い難工事ではあったが、JVの方々をはじめたくさんの方

貫通を祝い鏡開きを行う関係者（上）と挨拶する松尾総裁＝鹿児島市の現地で



真剣な表情で講演を聴く受講者＝鹿児島市の鹿児島管工事会館で

全管連ISO9001セミナー

経営改善の一助に

全国管工事業協同組合連合会（金子利会長）は11日、鹿児島市の鹿児島管工事会館でISO9001認証取得に関する研修セミナーを開き、管工事業者など約70人が参加して、ISO認証取得などについての具体的な説明に参加者は真剣な表情で受講した。

セミナーでは初めに、鹿児島市管工事協同組合の鮫島昭司専務理事が「業界を取り巻く状況は、受注の減少により、急速に悪化している。これらの打開策として、国土交通省の補助を受け、ISO9001認証取得に向けたセミナーを行い、経営改善が円滑に進む一助となればと実施することとなった」と金子会長の挨拶を代読した後、研修に入った。

講師は、神鋼リサーチ㈱（兵庫県神戸市）の寺元栄氏と武藤伸久氏が務め、「ISOトップセミナー（経営革新への挑戦！取得動機から経営戦略まで！）」と題して解説した。

このうち、寺元氏は「ISO9001を取得する目的として、近い将来、経営審査事項での評価に加点されることや指名入札条件になることが予想されるため、必要なツールとなる」と話すなど、ISOに関するさまざまな内容を分かりやすく説明した。

体験入居型モデルハウス見学会

完成度の高さに驚き

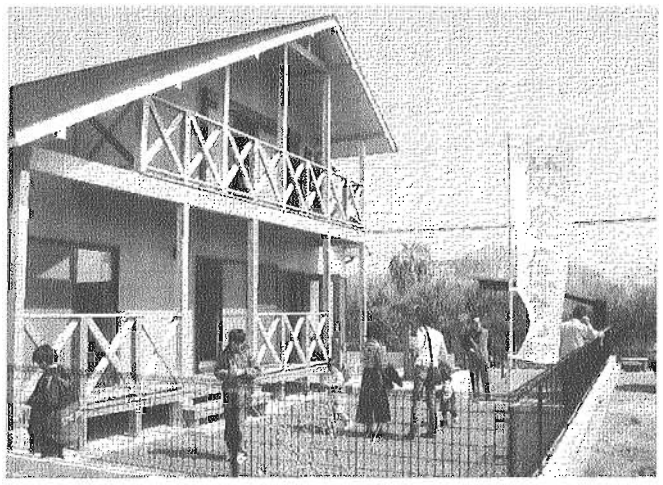
川路建設

㈱川路建設（川路豊社長）は9、10日の両日、指宿市内で体験入居型モデルハウスの完成見学会を開き、2日間で約480人が訪れ、同社が開発した「元気な家、健康住宅」の完成度の高さに訪れた来場者からは驚きの声が上がっていた。

同工法の特長は、自然との一体感を保ちながら、季節を感じることを基本コンセプトに、木の持つ温もりを視覚的・感覚的に取り入れていること。また、吹き抜けを取り入れることで意図的に遮音せず、家族の気配を感じられる空間を演出するとともに、部材には仕上塗料に自然系塗料オスモ・カラー（ドイツ製）を使用することで、人体に影響を与えずにカビや雑菌の繁殖を抑制できること。さらに、新建材を使わず地元材（ヒノキは別）を使用することで、ローコストで高品質な施工を可能とした。

同市西方在住の馬場美知子さんは「よく展示会には来ますが、新建材を使わず自然木をふんだんに使った工法に、木本来の温もりを感じますね」と同物件の造りに驚きの表情を見せていた。

同社の川路洋人常務は「今回の展示会は、出来るだけ多くの皆様方に弊社の技術を認知していただくのが狙い。今後もユーザーに喜んでいただける独創的な家づくりを目指していきたい」と抱負を語った。



多くの来場者で賑わった完成見学会＝指宿市の現地で

鹿児島北バイパスPI委員会

地下ボックス案を追加

鹿児島北バイパス磯の道づくりPI委員会は11日、鹿児島市のステーションホテルニューカゴシマで第1回目の会合を開き、これまでの経緯及び計画と特性などを踏まえ、さまざまな比較案をもとに、ルートや道路構造などについて話し合われた。

鹿児島北バイパスの都市計画は、昭和56年に決定され、平成5年の災害に伴い計画変更案が改めて策定されたところであり、いまだに地元の理解が得られていない。このため、これまでの経緯を踏まえ課題の解決を図るため、PI（パブリック・インボルブメント）方式を導入し、ルートや道路構造に対する意見交換を行うもの。

委員会の冒頭、森勝彦国道工事事務所所長が比較案の一つとして磯海水浴の下を通す地下ボックス案を追加したことを前置きし、「磯地区の歴史・景観・環境、道路の安全性、経済性等を総合的に勘案し、鹿児島北バイパスの快適なルート、道路構造について、PI方式（市民参画）を導入し話し合いを行い着実に前進したい」と挨拶した。

このあと、委員会の進め方、鹿児島市の道路交通の現況、これまでの経緯及び計画とその特性、さらなる比較案の検討などについて非公開で実施された。

PI方式では、鹿児島の共有財産である磯地区の将来像も視野に入れ、幅広く検討を進める必要があることから、地元町内会や一般市民等の意見を踏まえ、磯地区の歴史等を総合的に勘案し、ルート及び道路構造の基礎的な考え方をまとめる。

慎重な審議が行われた委員会＝鹿児島市のステーションホテルニューカゴシマで

組合の認知度向上を

秋永 賢一 さん

当社の仕事は、住宅からビルまでの電気配線、設備、LAN配線など電気工事業全般です。「街に明かりをともす」をモットーに、現場では相手の身になって、また、自分の家と思い施工する、営業的には人とのつながりを大事にして人を裏切らないことを心がけております。今後の目標は、鹿屋肝属電気設備協同組合、大隅電気工事業協同組合が世間に

（有）中央電気社長）